

從軍行

王昌齡

秦時の明月漢時の関
万里长征して人未だ還
但竜城の飛將をして在らしめば
胡馬をして陰山を度らしめず

【作者】 王昌齡（六九八〜七五五年？） 中国，盛唐の詩人。字（あざな）は少伯。七言絶句の名手として李白（りはく）と並び称

せられた。閨怨（けいえん）の詩に優れた。盛唐期の詩人。秘書省校書郎となつたが、礼法を無視する奔放な性格が禍いして龍標（現在の湖南省）に左遷され、安祿山の乱の時、混乱に紛れて勝手に故郷に帰つたために刺史閻丘曉（ろきゆうぎよう）に殺された。七言絶句の名手で、特に女人怨情（えんじよう） 辺塞出征の詩に優れたものが多い。

【語釈】 *従軍行…楽府題の一つで、軍人の遠征の辛苦を歌つたもの。 *竜城の飛將…竜城は匈奴（きようど）の地名。漢

の李広は、匈奴の人々に「飛將軍」と謳われて恐れられた。また衛青は、竜城で匈奴の大軍を撃破した。 *陰山…山西省の北方から内蒙古に広がる山脈。万里の長城とゴビ砂漠に挟まれた位置にある。（漢と匈奴の国境の役割をした。）

【通釈】 あのもも、この城壁も、秦代や漢代の昔と変わらないが、遠く万里のこの地に出征してきた人（私）は、未だに故郷に帰れないでいる。ああ、もしも漢の飛將軍と謳われて匈奴の本拠竜城を震いおのかせた李広將軍がいたらならば、胡の騎兵にみすみす陰山山脈を越えてわが本土に侵入させるようなことはあるまいものを。